



にじいろ通信

令和8年 6月号

キッズケア青い鳥のWEB
予約と事前登録はこちら



油断禁物！ 熱中症に⚠

5月というのに全国各地で真夏日が続出する記録的な暑さとなり、早くも熱中症のリスクに注意が必要な季節となりました。

熱中症はどのようにして起こるのでしょうか？高温下で体温が上昇すると、**皮膚表面の血管が拡張してそこで血液を冷やそうとします。**また、**汗をかいて熱を逃がそうとします。**この両方の作用で体をめぐる**血液量が減少してしまい**、筋肉、脳、肝臓、腎臓などの臓器に血液が行きわたらないために、こむらえり、めまい、頭痛、吐き気などの**症状が出現する**のが熱中症です。

熱中症が疑われる人がいた時に現場ではどのような対応をすればいいのでしょうか。

- ①**涼しい環境(風通しのよい日陰、クーラーが効いている室内など)に避難させましょう。**
- ②服を脱がせ**濡れたタオルをあて、うちわや扇風機で風をおくりましょう。**冷やしたペットボトルなどを両脇や頸部、鼠径部などに当てて血液を冷やしてあげてください。
- ③**自分で水分が飲めるようなら、冷やした水やイオン飲料をどんどん与えてください。**
- ④**自力で水分が飲めない時や意識がはっきりしない時は、緊急で医療機関への搬送が必要です。**

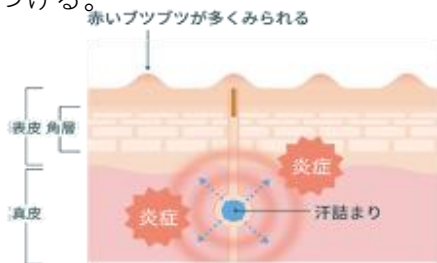
あせもの原因と対処法

暑い時期、子どもはよく「あせも」ができます。その原因は、大量に汗をかくと汗を排泄する管が詰まり、汗が皮膚の内側に溜まってしまって皮膚に炎症をおこすからです。

【あせもの予防や対処法】

①**汗をかいたらタオルでこまめに拭き取る。**大量に汗をかいたら帰宅後**シャワーで洗い流す。**室内で暑さを感じたら我慢せずに**エアコン**をつける。

②**あせもができたなら、かかないようにする。**早めの**ステロイド外用薬の塗布**がお勧め。



5月の感染症情報

インフルエンザ、コロナの発生はありませんでした。RSV、ヒトメタが乳幼児にみられましたが、5月後半からは減少しています。学童児でマイコプラズマ感染症が流行しました。学童児で発熱、咳が遷延する時は要注意です。溶連菌も散発的に発生しています。

キッズケア青い鳥の
ブログはこちら



青い鳥を利用したお子様の様子などをブログで随時配信しています。ぜひ上記のQRコードにアクセスしてみてください。

5月の利用状況

5月の利用延べ人数は97人、1日平均利用人数は4.9人でした。年齢別では、6歳児が23人で最も多く、次いで小学2年生18人の順でした。疾患別では、普通感冒が32人で最も多く、次いでマイコプラズマ感染症の順でした。5月はマイコプラズマ、RSV、ヒトメタなど呼吸器の感染症が多くみられました。